

企画展

生活画の起源

—佐藤文利の想画教育—

会期／1994年4月23日(土)～6月12日(日)



「学校帰り」 吉田 繁徳 (尋5)

山形県立博物館

～ 開催にあたって ～

「図画の時間」と聞くと何を思いうかべますか。

日本の図画教育のはじまりは書道と同じように手本を見てそのとおりに写すというやり方でした。これを臨画といいます。美しくかくことより正しくかくことが優先されたのです。

昭和初期、長瀬小学校では地域の人たちに「この頃、わらすだ（子供たちが）おもしろい図画かくようになったなあ」と言われるようなすばらしい絵が

たくさん描かれるようになります。想画とよばれたもので自分たちを取り巻く自然と生活が描き出された個性的なものです。この指導の中心にいたのが佐藤文利です。長瀬小学校では代々この絵画を大切に保存し図画教育に利用しています。

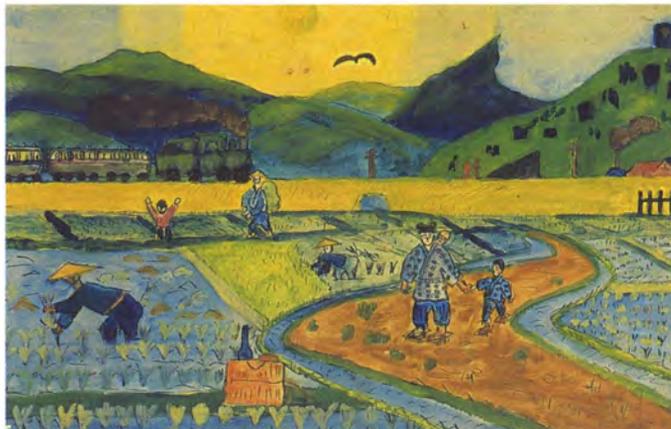
今回の展示はその指導面にも光をあて、生活の発見、郷土の発見、子供の発見をテーマに掲げ全国的にも注目されていた想画資料を紹介するものです。



「タンスかつぎ」 鈴木国造(高2)



かへ飾り (尋6)



「田植え」 奥山輝男 (高2)

<主な展示>

長瀬小学校想画資料
佐藤文利模写「鳥獣戯画図」
佐藤文利自筆原稿
佐藤文利画「紙芝居・吉田大八」
図画教科書
美術教育雑誌
図画道具・その他

<主な展示協力機関・協力者>

東根市教育委員会
東根市立長瀬小学校
村山市立戸沢小学校
天童市妙法寺
東京都文具資料館
青山光佑氏・石島庸男氏
東海林隆氏・井上庫太郎氏・寒河江文雄氏
㈱王様クレイヨン商会



「てまりあそび」 児玉マツエ (高1)



「雪あそび」 福永喜一郎 (尋3)